

## 第 100 回 CPC 質問と回答

- ・診察医師の年次。 → 卒後 15 年目。
  - ・「持続痛」とは「痛みに強弱の差がなく同じ強さでずっと続いている」ということか。 → はい。
  - ・8/14 からの水様便について、1 回量と便色、腹鳴について。 → 未聴取。
  - ・8/11 から食事量減ったが、水分摂取や排尿量減ったかどうか。 → 未聴取。
  - ・海外渡航歴。 → なし。
  - ・入院前の体重推移。 → 未聴取。
  - ・体のむくみについて自覚があるか。 → 入院後下腿浮腫は自覚あり。
  - ・両側側胸部痛の左右の最強点。 → 「このあたり」と、胸骨より下の下部肋骨をさする。
  - ・最終のロキソニン内服時間。 → 入院後 8 月 19 日 23 時に 1 錠内服が最終。
- 
- ・過去の胸部 X 線単純写真と CTR 比較。  
→ [胸部 Xp (X-8 年 2 月)] 立位 PA 横隔膜高 (R/L) 10 肋骨/10 肋間 CTR40%
  - ・過去の BUN、Cr、Plt 値。 → (X-6 年 4 月) BUN17.5 Cr0.69 Plt19.3
  - ・過去のヘパリン投与。 → なし。
- 
- ・リンパ節の圧痛の程度。 → 強く押さえると少し痛む程度。
  - ・舌の乾燥してひび割れなどの有無。 → 舌正で乾燥ひび割れなし。
  - ・入院時眼瞼結膜・指趾の点状出血の有無、温痛覚。 → 未検。
  - ・立位臥位での血圧脈拍変化。 → 未検。
  - ・下肋骨部叩打痛。 → 未検。
  - ・背部～臀部圧痛。 → 未検。
  - ・腎双手診。 → 未検。
  - ・CVA 叩打痛陽性だが叩かれた場所が痛いのか左右上側腹部に響くのか。  
→ そのように問うたか記憶がさだかでなく不明。肋骨の圧痛なし。
  - ・入院時下腿浮腫なしか。 → 下腿浮腫なし。
- 
- ・入院時採血の目視像。 → 呈示の通り。
  - ・入院時 CT で腎臓の皮質の厚さ。 → 単純 CT で皮質厚不明。
- 
- ・入院時大きい血小板は赤血球と比較してどれくらいの大きさか。入院中の血小板サイズの推移。  
→ 巨大血小板あり、少なくとも赤血球と同程度の大きさの血小板あり。  
血小板サイズの推移は不明。巨大血小板は 9 月 5 日まででその後なし。  
10 月 9 日～10 月 29 日の期間除いて血小板大小不同ほぼ終始あり。
  - ・タンパク分画、M タンパクの有無。  
→ X 年 9 月 10 日 Alb38.1% α1-G 9.2% α2-G 12.4% β1-G 5.7% β2-G 4.7% γ-G29.9% (ホ° リクローナル)
  - ・破碎赤血球の有無。 → 破碎赤血球なし。
  - ・胸腹水穿刺。 → 未施行。
  - ・浮腫出現の前後での乳酸値。 → 未検
  - ・8 月 23 日骨髄穿刺の結果を定量的に。  
→ 有核細胞数 60000/μl MegK<16 M/E20.38  
スメア：好中球主体で骨髄細胞わずかに確認、骨髄球・赤芽球系に異形成なし。  
病理：dilute marrow で骨髄細片はきわめて少数。

- ・入院後いつから発熱あるか。 →8月18日入院時37.7℃。翌朝6時38.7℃でアセトアミノフェン内服。
- ・入院後下痢はどうなったか。 →8月19、20日は1日1回水様便。以後は2-3日に1回であったり連日あったりで、毎回の便性状は不明。カルテには、9月7日「昨日まで下痢、まだ緩い」、9月10日「下痢良くなった」との記載あり。
- ・入院後の輸液量、体重の推移。
  - 呈示資料の別紙血液検査経過に体重記載あり。
  - 輸液量は初日のみ生食3500ml、その後は維持液1000ml/日で9月7日のみ追加で細胞外液1000ml。
  - 9月10日から維持液500ml/日、9月12日朝で終了。
- ・入院後貧血が進行した際の溶血の所見・尿中ウビリゲン。
  - LDHは呈示の通り。TB0.4-1.1、尿ウビリゲンは終始normal。
- ・血小板減少時の脾臓のサイズ。 →9月6日CT参照。
- ・入院中心房細動の出現は一度もなかったか。 →なし。
- ・退院時リンパ節腫脹・腹水はどうなっていたか。 →リンパ節不触・圧痛なし。腹水の有無は不明。